



おびひろ の歴史

年代	主なできごと
(1800年)	
寛政12年	皆川周太夫、トカチ川筋を踏査。
文化5年	トカチ場所の戸口は40部落254戸1,034人に。
明治2年	蝦夷を北海道と改める。十勝国を創設、7郡が置かれ、この地に河西郡下帯広村ができる。
15年	北海道開墾晩成社が静岡県伊豆国で組織される。 依田勉三・鈴木銃太郎、オベリベリ（下帯広村）を開墾地に選定。
16年	晩成社移民団27名、オベリベリに入殖。
19年	晩成社オベリベリに1道2橋を建設。
21年	十勝原野を概測、帯広周辺を調査。
24年	下帯広村を起点として十勝国の殖民地を区画。
25年	下帯広村に三等測候所開設。帯広郵便局開局。 北海道集治監釧路分監帯広外役所を下帯広村に置く。下帯広村に官設駅通所開設。
26年	下帯広村に河西外二郡(河東、上川)各村戸長役場設置(翌年開庁)。
28年	釧路警察署下帯広分署開庁。北海道集治監十勝分監開庁。十勝農事試作場開場。
29年	殖民地地区画地貸付け開始。大量移住始まる。帯広尋常小学校、十勝内陸初の学校として開校。
30年	釧路外十二郡役所を分割し、河西外六郡役所を下帯広村に置く。河西支庁開庁。下帯広警察署開庁。
32年	釧路区裁判所帯広出張所開庁。
(1900年)	
33年	河西外二郡各村戸長役場から芽室外六村を分離、下帯広十一村戸長役場となる。河西税務署開庁。
34年	下帯広十一村戸長役場から音更外二村を分離、下帯広八村戸長役場となる。
35年	下帯広外八村を廃合、下帯広村を帯広町とし、伏古・幸震・売買・上帯広の4村と組合をつくり二級町村制施行。 帯広区裁判所開庁。
38年	帯広・釧路間鉄道全通、帯広駅開業。十勝川に開成橋新設。
40年	帯広・旭川間鉄道開通。帝国製麻株式会社帯広工場操業開始。
(1910年)	
43年	帯広郵便局電話業務開始。
44年	河西橋渡橋式。十勝公会堂落成。皇太子、行啓。
大正3年	市街に試験電灯つく。
4年	帯広町外4村組合を廃合、帯広町に伏古村の一部を併合して一級町村制施行、初代帯広町長奥野小四郎就任。大正村二級町村制施行。十勝姉妹職業学校創立(帯広三条高校の前身)。
7年	町内に自家用自動車登場。
8年	北海道製糖株式会社創立。
(1920年)	
9年	帯広・札幌間電話回線開通。帯広町外十二ヶ村組合立十勝農業学校創立。北海道製糖工場操業開始。
10年	帯広実業協会発足。
12年	大谷女学校、庁立帯広中学校、帯広裁縫女学校開校。十勝鉄道株式会社創立。
13年	川西村、大正村から分村。
14年	帯広・士幌間鉄道開通。都市計画事業に着手。
15年	帯広実業協会、帯広商工会に改編。鈴蘭公園開設。
昭和4年	十勝会館竣工。緑ヶ丘公園開設。
(1930年)	
5年	帯広・広尾間電話開通。町章制定。
7年	帯広飛行場完成。河西支庁を十勝支庁と改称。晩成社解散。
8年	市制施行、初代市長に渡部守治就任。
11年	N H K帯広放送局開局。十勝農業学校、稲田に新築移転。天皇、行幸。
12年	帯広盲学校、ろう学校創立。
14年	帯広保健所開設。帯広商工会議所設立。

年代	主なできごと
(1940年)	15年 十勝大橋渡橋式。北部七三隊、帯広憲兵分隊開隊。 16年 帯広高等獣医学校開校（帯広畜産大学の前身）。 17年 第2代市長に橋本東三就任。 18年 帯広市制10年奉告祭。 19年 第一飛行師団(鎗部隊)、第七師団(熊部隊)帯広に移駐。 20年 帯広ほか空襲。米軍進駐。 昭和21年 第3代市長に奥野小四郎就任。 22年 帯広営林局開庁。公民館開設。第4代市長に佐藤亀太郎就任。第1回平和祭。 第一、第二、川西、清川、岩内各中学校創立。 23年 市警察、地区警察開庁。第三中学校創立。 24年 帯広畜産大学創立。
(1950年)	25年 第4回全国レクリエーション大会開催。市立図書館落成。警察予備隊帯広部隊創設。 26年 帯広開発建設部開庁。第四中学校、緑丘小学校創立。 27年 開基70年市制施行20年記念式典。十勝沖地震。上水道事業着手。平和博覧会開催。労働会館竣工。 広野、上帯広中学校創立。 28年 平原学園開設。北栄小学校創立。市営競馬始まる。 29年 天皇皇后、行幸啓。自衛隊第5管区総監部創設。光南小学校創立。 30年 第5代市長に吉村博就任。HBC帯広放送局ラジオ放送開始。市教育研究所設立。東小学校創立。 帯広厚生病院完成。 31年 渡辺女子高等学校開校（帯広北高校の前身）。 32年 川西村・大正村、帯広市に合併。上水道第一期工事竣工。帯広ガス創立。札内橋竣工。 帯広電報電話局庁舎完成。 33年 市庁舎竣工。電話自動化。大通跨線橋竣工。白樺学園帯広商業高等学校創立。野草園開園。 帯広青年会議所創立。 34年 市立南商業高等学校開校。国体スケート大会開催。帯広市総合計画策定。下水道工事着工。 柏台台団地造成着手。NHKテレビ、十勝ヶ丘から放送開始。第五中学校創立。
(1960年)	35年 帯広市史発刊。帯広大谷短期大学創立。 36年 第六中学校創立。帯広「市民文芸」創刊。十勝農民会館完成。藤丸百貨店新築開店。 37年 開基80年市制施行30年記念式典。市民会館開館。帯広工業団地造成着手。交通安全都市宣言。 家畜処理場開設。帯広郵便局新局舎落成。帯広市産業開発公社設立。 38年 国体スケート大会開催。帯広動物園開園。釧路地方裁判所帯広支部新築移転。 S T V帯広放送局、H B Cテレビ開局。駅前地区都市改造事業着手。 39年 第1回帯広氷まつり。帯広空港開港。児童会館開館。学校給食共同調理場竣工。老人福祉センター開館。 道立帯広工業高校創立。 40年 開広団地造成。帯広終末処理場竣工。帯広市ほか七町村伝染病隔離病舎組合設立。第七中学校創立。 帯広市ほか七町村清掃施設組合設立。 41年 帯広民衆駅竣工。帯広少年院開庁。農業改善事業着手。大分市と空港姉妹都市調印。 帯広市の木(白樺)、花(黒ユリ)、鳥(ひばり)制定。清川、啓西小学校創立。 42年 勤労青少年ホーム開館。中島処理場竣工。大空団地造成事業着手。太平地区簡易水道完成。 帯広市計量検査所開設。 43年 国体スケート大会開催。帯広貨物駅竣工。帯広図書館新築移転。 帯広市ヤングセンターオープン。郷土資料室を新設開館。米国スワード市と国際姉妹都市提携。 44年 婦人センター開館。つつじが丘霊園着工。帯広市ほか十九町村高等看護学院組合発足。H T B帯広放送局開局。豊成小学校創立。 帯広市ほか五町村環境衛生施設組合設立。
(1970年)	45年 学校給食製パン工場竣工。帯広専修職業訓練校新築移転。大正地区簡易水道通水開始。 大空小学校創立。彫刻の森造成着手。 46年 第二期総合計画基本構想策定。栄小学校創立。道立帯広柏葉高校新築。 47年 開基90年市制40年記念式典。帯広市総合体育館開館。ヤングセンターを市に移管。市役所第2庁舎完成。 U H Bテレビ開局。帯広清掃工場竣工。帯広市東明寮開館。

年代	主なできごと
48年	勤労者福祉センター開館。工芸センター開館。商品テスト室開館。帯広の森事業着手。 夜間急病診療事業実施。帯広市土地開発公社設立。駅南土地地区画整理事業(第2工区)着手。 物品購入等不祥事件調査特別委員会設置。高齢者無料職業紹介所開設。
49年	第6代市長に田本憲吾就任。帯広市交通センター(中央立体駐車場、中央バスターミナル)竣工。 第八、大空中学校創立。
50年	おびひろっ子の家オープン。南町中学校創立。流通業務団地造成着手。
51年	新刑務所新築移転。市立病院新築。中央公園完成。
52年	西陵中学校創立。新帯広空港工事着手。刑務所跡地開発事業着手。
53年	産業技術センターオープン。北海道養護学校開校。松崎町と開拓姉妹都市提携。破碎処理工場竣工。 夜間急病センター開設。鈴蘭浄苑竣工。人口15万人達成。新帯広市総合計画、基本構想策定。
昭和54年	初の鉄南コミュニティセンター落成。広陽小学校創立。十勝総合食肉流通センター創立。 帯広市ほか三町十勝川流域下水道管理組合発足。大正農業者トレーニングセンター開所。 新帯広市総合計画基本計画策定。岩内自然の村農業体験実習館竣工。
(1980年)	
55年	稲田水源地浄水施設建設工事着工。市立緑陽高校開校。広小路全がアーケード完成。
56年	新帯広空港開港。グリーンパーク400mベンチ完成。国鉄石勝線開業。 十勝中部広域水道企業団設立。川西農業研修センター開所。
57年	市街地再開発ビル(ふじまるビル)オープン。北方園農林博覧会開催。市民憲章制定。 開基100年市制施行50年記念式典。帯広百年記念館開館。 新学校給食共同調理場落成。花園小学校創立。徳島市と産業文化姉妹都市提携。
58年	帯広赤十字センターオープン。市立緑陽高校、道立に移管。啓北小学校創立。 新工業団地造成着手。(仮称)新ごみ処理場建設工事着手。公害防止センター開設。
59年	帯広市史発刊。帯広市ほか七町村複合事務組合発足。帯広市文化スポーツ振興財団設立。 チンネル処理センター開所。八千代農業センター開所。
60年	氷雪の家オープン。帯広シティーケーブル開局。帯広の森体育館落成。帯広の森スピードスケート場落成。 帯広市畜産物加工研修センター完成。おびひろグリーンステージ完成。
61年	社団法人帯広市シルバー人材センター設立。帯広市総合福祉センター開設。 社団法人帯広市観光物産振興会設立。
62年	帯広の森アイスアリーナ供用開始。植村直己野外学校ログハウス校舎完成。公文書公開制度実施。
63年	全国高校総体スケート競技大会開催。帯広市火葬場竣工。健康スポーツ都市宣言。帯広市民文化ホール完成。帯広郵便局新局舎落成。
平成元年	はまなす国体スケート大会開催。南商業高等学校新校舎完成。第四期帯広市総合計画策定。 帯広市ほか七町村複合事務組合の名称を帯広市ほか十町村複合事務組合に改称。
(1990年)	
2年	第7代市長に高橋幹夫就任。帯広の森野球場完成。第37回国際学生会議開催。 帯広市ほか十町村複合事務組合の名称を帯広市ほか十三町村複合事務組合に改称。
3年	核兵器廃絶平和都市宣言。道立帯広美術館開館。平原大橋・愛国大橋完成。夜間保育所開所。
4年	市役所新庁舎完成。帯広・大阪間直行便開設。みどりいむ'92開催。開基110年市制施行60年記念式典。
5年	釧路沖地震被災。地方拠点都市法に基づく地域指定を受ける。人口17万人到達。
6年	帯広・名古屋間直行便開設。道立十勝圏地域食品加工技術センター開設。スピードスケートW杯帯広大会開催。 コミュニティFM2局が開局。
7年	帯広・福島間直行便開設。北海道横断自動車道(清水～池田間)開通。とかちプラザオープン。 帯広市農業技術センターオープン。
8年	新十勝大橋開通。帯広・仙台間直行便開設。くりりんセンター竣工。鉄道高架開通・新駅供用開始。 森の交流館・十勝オープン。帯広の森市民プールオープン。
9年	JAL帯広・東京線就航。帯広の森弓道場・アーチェリー場完成。国道236号豊似～浦河間(天馬街道)開通。
10年	第8代市長に砂川敏文就任。川西健康増進センター落成。新帯広市生活館(ふくろうの館)落成。 すばく帯広落成。帯広市シルバーいきいきプラザ落成。第1回十勝大平原国際クロスカントリースキー大会開催。
11年	つつじが丘小学校創立。新消防庁舎落成。平原通商店街振興組合街路整備完成。 帯広駅北地下駐車場・駅前北交通広場完成。
(2000年)	
12年	帯広の森テニスコート完成。すずらん大橋開通。第五期帯広市総合計画策定。 ユニバーサルデザインモデル住宅完成。中国朝陽市と国際友好都市提携。

年代	主なできごと
13年	IS014001認証取得。帯広の森スポーツセンター完成。
14年	とかち青空国体スケート・アイスホッケー競技会開催。札内清柳大橋開通。開拓120年市制施行70年記念式典。
15年	帯広広尾自動車道帯広～川西間開通。駅北多目的広場オープン。十勝沖地震発生。 帯広市史（平成15年版）発刊。
16年	帯広市立病院廃止。最後となる第30回帯広の森市民植樹祭開催。初のWRC（世界ラリー選手権）開催。
17年	とかち大平原交流センターオープン。コミテ・プレニエ・フロマージュ（ナチュラルチーズ国際会議）開催。
18年	新帯広市図書館オープン。帯広市保健福祉センターオープン。十勝産業振興センターオープン。 米国マディソン市と国際姉妹都市提携。帯広広尾自動車道川西～幸福間開通。
19年	ばんえい競馬帯広市で単独開催。帯広市・川西村・大正村合併50周年記念式典。
20年	環境モデル都市認定。平和市長会議加盟。新消防署南出張所落成。 帯広・広尾自動車道の幸福～中札内間が開通。
21年	帯広市民ギャラリーオープン。帯広の森屋内スピードスケート場（明治北海道十勝オーバル）オープン。
(2010年)	
平成22年	第9代市長に米沢則寿就任。第六期帯広市総合計画策定。帯広の森・はぐくむオープン。 観光交流拠点施設「とかちむら」オープン。ワールドカップスピードスケート帯広大会開催。
23年	一般廃棄物最終処分場うめーるセンター美加登(池田町)共用開始。AIRDO帯広・東京線就航。 第三中学校と第六中学校を統合し翔陽中学校を創立。定住自立圏の形成に関する協定締結。 フードバレーとかち推進協議会の設立。道東自動車道帯広-札幌間全面開通。 北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区に指定。
24年	豊成小学校新築移転。帯広市開拓130年市制施行80年記念式典。初のフードバレーとかちマラソン開催。 市民活動プラザ六中がオープン。
25年	バイオマス産業都市に全国第1号として選定。幸福駅リニューアルオープン。
26年	休日夜間急病センター移転オープン。帯広市成年後見支援センター「みまもーる」開所。
27年	新学校給食センター稼動。
28年	とかち広域消防局が業務開始。高齢者いきいきふれあい館「まちなか」オープン。
30年	帯広駅前パスターミナル「おびくる」が供用開始。十勝環境複合事務組合が十勝圏複合事務組合に統合。
(2020年)	
令和2年	第七期帯広市総合計画策定。新総合体育館「よつ葉アリーナ十勝」オープン。
3年	民間委託によるとかち帯広空港の運営を開始。
4年	大空小学校と大空中学校を統合した、大空学園義務教育学校を開校。帯広市開拓140年市制施行90年記念式典を開催。
5年	全国高校総体 女子サッカー・剣道・アーチェリーの競技大会を開催。
6年	帯広の森50周年記念式典を開催。日高山脈襟裳十勝国立公園が国立公園に指定。
7年	韓国AeroK航空による清州・仁川との国際定期便が就航。